

下松市役所(井川市長(左)にアルミ製のチェロを寄贈する山下社長(中央)と制作した藤井さん



下松市にアルミ製チェロ

新幹線の板金・山下工業所が寄贈

ものづくり象徴「職人冥利」

新幹線の板金加工を手がける下松市東海岸通りの山下工業所が24日、自社製のアルミ合金製チェロを市に寄贈した。車両先端の「顔」をハンマーでたたいてつくる「打ち出し板金」の技を用いている。市制75周年記念のプレゼント

細めていた。

チェロは銀色に輝く全長約130センチ、重さ約7キ。胴体は6枚のアルミ板からなり、厚生労働省認定「現代の名工」、藤井さんが2008年につくった。同社は技術を紹介するため金属製の弦楽器に挑戦。これまでにチェロ5丁、バイオリン6丁、ピオラー1丁を完成させている。

藤井さんと社長の山下童登さん(50)がこの日、市役所を訪れ、手掛けた新幹線に由来する3丁目のチェロ「のぞみ」を贈った。アルミ製のバイオリン、ピオラー、チェロとマグネシウム製バイオリンの四重奏のCDも披露。森田康夫副市長は「重厚な音がする」と感心していた。

【峰下喜之】

豪州の中高生18人 花岡小1年生と交流

華陵高校(下松市)

と姉妹校の縁でオーストラリアから来日中のカワナ・ウォーターズ・ステート・カレッジの生徒18人が24日、下松市立花岡小学校を訪れ、1年生の授業に参加した。児童は「Nice to meet you!」(よろしく)と元気に出迎え、漢字の成り立ちなどを一緒に学び、交流を楽しんだ。

18人は13〜16歳(中学2年〜高校2年)で、

オーストラリア東部のクイーンズランド州の

小中高一貫校で日本語を学んでいる。姉妹校となった2012年以来、初めて華陵高を訪れた。21〜26日、華陵高の生徒宅にホームス



オーストラリアの生徒にクラスで飼育しているカニを紹介する花岡小の1年生たち